

会員だより

組合員参加による地域健康づくり運動を推進して (高岡市農協東部支所における活動)

高岡市農協健康管理推進協議会

東部地区担当理事 向 井 勇 蔵

東 部 支 所 長 横 越 太 美 雄

本 所 生 活 指 導 員 浦 上 節 子

支 所 生 活 指 導 員 御 後 悦 子

はじめに

健康を守る活動を協同活動強化運動の重要な柱として、多くの農協で実践活動が展開されている。高岡市農協においては組合員の参加と関連機関の協力、連携によってこの活動をより活発にするために高岡市農協健康管理推進協議会を昭和53年に設置した。そしてこれを母体に活動を展開している。この協議会は組合員と最も密接な関係を持つ農協の支所に支部協議会を置くことになっている。

当東部支所においては協議会の設置に先立って昭和52年に農業従事者健康推進特別事業（農林省補助事業）の指定をうけ組合員の代表と関係団体の代表者によって「健康推進モニター会議」を設置した。このモニター会議で提案、検討されたものをそれぞれの組合員代表が地区の組合員に徹底することによって共通認識し幼児から高齢者までの幅広い組合員の参加によって活動が展開されてきた。

急速に市街化し混住化が進み組合員の生活も多様化した中で農協に対する期待や要求も複雑になって来ていた。当支所において組合員の結集をはかるために組合員の共通課題である健康を守る活動は重要な意味を持った。

この活動の概要を以下に報告する。まだまだ他の地区に比べて活動が活発に展開されているとはいえない。此の報告を契機としてより一層組合員の健康づくりを進めたいと考える。諸氏のご批判、ご助言を期待するものである。

ある。

1. 東部支所管内の現況

地区の特徴

国鉄高岡駅を中心に半径2キロ以内に全域が包含され、学区も3校下となって都市の典型をなしている。

現在 100haの区画整理事業が施行中である。過去には25haの同事業が施行済みであり、急激な都市化が進行している。

作 目 軟弱野菜の生産、出荷の主産地である。生産意欲は極めて旺盛。

組合員 正 227、准 285、農家戸数 227戸
(内酪農家2戸乳牛 117頭)

農 地 田 116ha、畑12ha、ビニールハウス48棟、温室4棟、野菜保冷庫36台。

生産組合 12 貫流用水路 11

史跡名勝仏閣 古城公園、開祖前田利長公御廟瑞龍寺、繁久寺ほか22寺院

官公庁 県総合庁舎、食糧事務所、統計情報事務所、県工業試験場、裁判所、その他

学 校 幼稚園、保育所 6、小学校 2、中学校 2、県立高校 2、大学 1、その他

公共施設 高岡駅、中川駅、武道館、市営テニスコート、市立公民館ほか6カ所

競合機関 金隔機関12、郵便機関 4、量販

2、保険会社4社ほか、

ろそかにし勝ちである。

2. 運動に取り組んだ動機

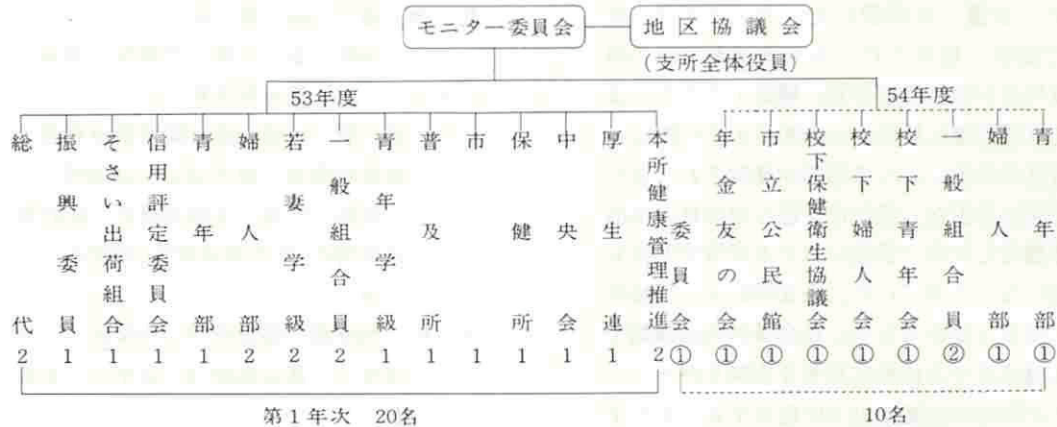
- (1) 組合員の健康実態を把握した結果、県下の平均値を下回る健康度に、あらためて運動の必要性を痛感した。
- (2) 市街地農協として農協への組合員意識がうすれつつあるとき、組織運動を展開して組織活動の強化をはかりたい。
- (3) 農協イメージの転換をはかり、地域機関としての特徴ある機能を果たしたい。
- (4) 健康こそ何ものにもまさる財産であることを組合員自らが自覚する運動としたい。
- (5) 生活の合理化をすすめるなかで新しい地域づくりを試みたい。

4. 推進組織づくりのために

- 1. 推進運動の母体を確立するためにモニター委員会を設立する。
 - (1) 地区協議会で委員の選任方法をはかり指名の一任を得る。
 - (2) 各組織の代表者であると共に性別の均衡をはかる。
 - (3) 運動浸透のため部落間の均衡をはかる。
 - (4) 地域運動を展開するため地区内の関連団体の参加を求める。
- 2. 運動にあたっての心がけ
 - (1) モニター会議の決定事項は確実に実践すること。
 - (2) 運動は中断なく展開して活動を相互に確認すること。
 - (3) 自主活動を進め持続させること。
 - (4) 経済的な負担が双方にのしかからぬようにすること。
 - (5) 非営利を基本とした奉仕活動に徹すること。
- 3. 自らの組織機関とするために定員制による運営をはかり討議機会を容易にする。

3. 生活、農作業、健康上の特徴

- (1) 軟弱野菜地帯のため腰をまげる作業姿勢が多い。
- (2) 健康に関する関心が少ない。機会も少なかった。
- (3) 出荷時間に追われ生活時間が少ない。特に睡眠時間が不足している。
- (4) 貧血者が多い。多忙のため食生活をお



〔モニター会議の特徴〕

- 毎月定例的に開催(日中、時間厳守で開催)
- 指導者のおしつけでなく、常に皆の意見をとり入れる。

- 部落代表者、各組織代表者で構成され、運動が浸透しやすいメンバーで構成されている。
- 健康づくりの代表者として自覚があるため、モニターを中心とした自主活動になった。

○推進活動に関する企画・実践の決定機関である。

5. 活動内容

(1) 生活、生産調査……モニター会議で調査、部落座談会で全組合員に徹底。

(イ) 第一回 (53. 7. 20) 63名
生活面——身体の調子、食事の形態、嗜好、食品、食べ方の特徴、生活態度、体質、疲労と身体症状

(ロ) 生産面——作業全般、温度、湿度、夜間作業、作業の身体的影響、農薬の取扱い、ストレス、機械、作業対応態度など 150項目にわたるアンケート調査

調査結果

○失点の高い項目

- | | | |
|------|----------|--|
| 生活行動 | 1. 食事の特徴 | ①卵を毎日食べていない
②豆腐を毎日食べていない
③小魚を毎日食べない |
| | 2. 休養・娯楽 | ①休日を定期的にとっていない
②うたた寝をする
③各種行動にあまり参加しない |
| | 3. 生活態度 | ① 100才まで生きる望みない
②自己負担をして健診を受けたことない
③暮しの工夫、新しい試みを好まない |
| 生産行動 | 1. ストレス | ①体調悪くとも作業する
②農業を芯から好んでいない
③農作業と家事作業の両立むづかしい |
| | 2. 作業全般 | ①中腰で長時間の作業をする
②ホコリの中で働く
③長時間高い所、歩きにくい通路での作業をする |
| | 3. 身体的影響 | ①暑い所で働くので頭がくらくらする
②腰や肩を痛めている
③作業による体が冷えることがある |

(モニターによる集計のため各地区の特徴問題点が認識された)

(イ) 第2回 54. 6. 10

全戸対象 前年度の欠点の多い項目を中心にアンケート実施

- ・休養と娯楽の状況について
- ・食生活の状況について

- ・積極的な生活態度の状況について
- ・疲労と身体症状
- ・健康管理の工夫について
- ・生産活動の工夫状況について

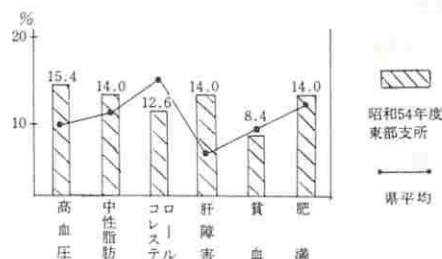
調査結果の問題点

- ・余暇時間の活用が充分でない
- ・大豆の摂取状況が少ない
- ・体重と身長バランスがとれていない
- ・農薬散布の装備状況が不備

(2) 簡易ドック検診及び精密検診1日コース

(イ) 第一回簡易ドック検診

受診者 71名 S. 53. 7. 20



A ランク 27名 (38%)
B ランク 19名 (27%)
C ランク 25名 (35%)

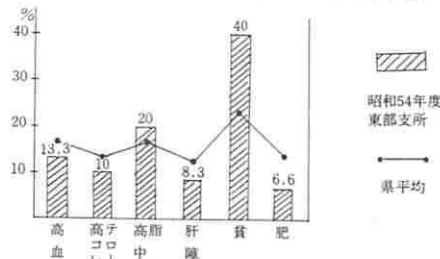
市保健婦により要注意者、要医療者を家庭訪問指導実施する。

(ロ) 第2回簡易ドック検診

(ドライバー診断を併催)

受診者 63名 S. 54. 6. 60

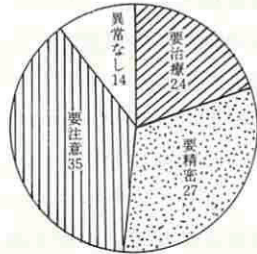
当農協保健婦により事後指導を実施



A ランク 16名 (25%)
B ランク 31名 (50%)
C ランク 16名 (25%)

(ハ) 精密検診1日コース

38名 55. 1. 30～1. 31



胃部レントゲン結果

受診者数	胃 炎	胃かい よう疑	十二指腸 けい室	十二指腸 ポリープ	異常なし
33名	14	1	1	1	16

腰部レントゲン結果

受診者数	変形性 腰椎症	側彎症	骨そしょう症	異常なし
33名	5	1	1	26

※胃部レントゲンの結果、要精密の人は、全員、胃カメラ検査を受けている。

(3) その他検診、検査内容

(イ) 井戸水水質検査 27件 S53.9.28

(ロ) 肝機能検査……3ヵ年追跡調査

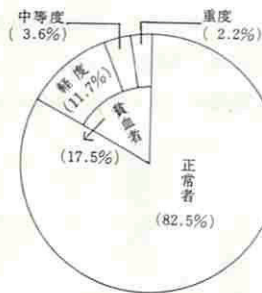
1回目 53.9.27 32名

2回目 54.8.10 32名

(ハ) 貧血検査 54.11.26～12.3

全組合員対象 137名

健康部落座談会で実施



正常者 113名 (82.5%)

貧血者 24名 (17.5%)

軽度貧血者 16名 (11.7%)

中等度貧血者 5名 (3.6%)

重度貧血者 3名 (2.2%)

部落座談会



(4) 健康推進コーナーの設置 53.6 (農協支所)

・パネル 健康生活を実現するために
～7つのポイント～

・健康を作る展示品

衣：防除衣・防寒着・健康ふとん・カ
ネクタンF

食：健康食品 (酢・サフラワー油・サ
ラダ油・ポリライス)

住：簡易トイレ

その他：血圧計・疲労測定機他

(客待ち時間を活用して、運動を推進)



(5) 健康標語の募集及び優良標語の掲示

(支所前・各部落) 54.3

- ・健康な身体と心でたのしい家庭
- ・あぜみちでこきりこ体操、笑い声
- ・たゆみない自己の努力で健康づくり
- ・健康な家庭の平和と繁栄と
わが家の健康母のうで
- ・進んで検診、健康管理皆んな笑顔で明る
い家庭
- ・飛んでまわって鍛えよう



選ばれた標語

(6) 健康部落座談会—健康意識向上徹底をはかることを目的

(イ) 第一回 53.11.20~25

11会場 187名出席 (出席率85%)

- ・健康推進の趣旨説明
- ・自分で作る健康問題
- ・ミニドック検診の結果報告

- ・テーマ
 - 腰痛の追放…古タイヤ利用の腰のばし体操・のびのび体操のPR (古タイヤ全戸配置)
 - 肝臓病の追放
 - 栄養と休養の改善

(ロ) 第2回健康部落座談会

54.11.26~12.3 185名参加

- 貧血調査 実費個人負担
- 腰痛防止用の作業椅子の考案
- 廃棄物焼却炉(ブロック製)のPR
- わたくしの人生のたのしみを求めるアンケート調査実施
- 「長生きのための食生活」スライド映写
- 健康貯金の推進
- みんなで考える地域農業問題について

(7) 農休日の設定

毎週土曜日 全部落で徹底 (各生産組合・野菜出荷組合、婦人部で強ちに徹底)
農休日を活用した集会・学習会(婦人学校・若妻学級)

(8) 健康づくりのつどい

(イ) 第1回一歩こう会

54.3.21 庄川堤防より10キロ進行

3才児~80才 100名参加

のびのび体操、宝さがしなど

(ロ) 第2回一歩こう会

54.10.14 庄川運動公園まで10キロ行進



家族そろって歩こう会

(イ) 健康講演会(心の健康について)

(9) 農薬防除衣の開発及び試着 54.4

ラブシートにて防除衣を作成試着

(10) 健康づくり食品の共同購入

(11) おつまみコンクール—おさけの上手なのみ方講習

54.12.5 各部落より3点 36点出品

モニター委員が審査

優秀作品をパンフレットにして配布

(12) その他

- ・我が家の健康手帳を全戸配布
全家族の健康状態を記録
- ・不足食品の摂取拡大運動—つるむらさき、たかなの苗無料全戸配布
- ・住民検診へ積極的な参加
- ・市立東部公民館の文化祭へ健康コーナー
作品展示し、地域民に対して健康にとりくむ農協をPR

(13) 主な学習活動

健康で明るい地域づくりを目指して

		53/12発足 年金友の会	53/4発足 下関村史料研究会	39/5 婦人学校	54/4 若妻学級	39/5 青年部
		65名	55名	102名	15名	100名
主 な 学 習 内 容	3	役員会、奉仕活動、野外研修 3/27 野外研修会(史蹟めぐり)	史料調査 3/11 第1回現地研修会 3/22 定例幹事会	開講式 営農研修及び民謡	開講式 「嫁と姑」講演	
	4	全会員へ研修資料、会則、名簿配布	4/17 瑞竜寺資料調査 4/20 定例幹事会	料理教室(糖尿病対策) 成人病対策	礼儀作法 やきもの教室	定例会 畑作研修
	5	奉仕活動 瑞竜寺総門前除草	5/11 定例幹事会 5/23 総会		やきもの教室	
	6	新聞記事掲載 奉仕活動	6/10 第2回現地研修会 6/20 定例幹事会	食品説明会 民謡	礼儀作法 やきもの教室	総会
	7		7/23 定例幹事会	営農教室 飲料づくり(レモン・苺)	礼儀作法 やきもの教室	定例会
	8		8/5 第3回現地研修会 8/20 定例幹事会	おどり 営農教室 商品研究民謡	親子のつどい	定例会 海外視察計画
	9	9/22 役員会 健康づくりの集い 農協施設めぐり 9/30会費徴収	9/1 福光町資料調査 9/20 会報第4号発刊 9/22 定例幹事会			定例会 農事研究
	10	10/14 健康づくりのつどい	10/17 史料検討会 10/20 定例幹事会 10/27 学校祭史料展示	営農教室 貧血検討及び民謡	やきもの教室 抹茶碗	健康づくりの集い
	11	11/18 農業施設めぐり	11/3 市立公民館史料展示 11/4 古文書調査 11/20 全体会議	野外研修会	食品研修 (貧血対策)	北海農業の報告会
	12		11/25 第4回現地研修会	料理実習	礼儀作法	
	1		1/20 全体会議 会報第5号発刊	手芸 ペーパーフ ラワー	礼儀作法 おさらい	1/15 レクリエーシ ョン
	2	2/20 役員外 野外研修会計画	2/20 定例幹事会 計画作成	健康講演会 反省会及び民謡	会食 反省会	2/2~2/9 海外視察 (アメリカ)

〔学習活動の特徴〕

- 年金友の会 中年層の組織として、社会奉仕の活動と親睦をはかるための研修会。
- 下関村史料研究会 地域研究は先人の事蹟に学ぶことが大切であるとの認識で、住民の手で確かめながらの研究活動。
- 婦人学校 営農全般の学習と生活改善の研修、民謡をうたいながらのソフトな自己研修。
- 若妻学校 文化生活の探求と実践をとおして香りのある生活研究。
- 青年学級 農業経営と農協事業について研

究、農業後継者として自己鍛練する。

6. 運動の展開のなかから学ぶもの！

- (1) 組織運動の在り方を再認識した。
 - ① 運動指標は高い社会性に富んでいること
 - ② 運動はくり返し行い、しかも持続性があること。
 - ③ 運動の参画は明解で参加のしやすい普遍性のものであること。
- (2) 健康運動の意識向上は、組織運動への関心と不可分である。

- ① 各種の集会への参加が増える。
- ② 若年層の参加が活発になる。
- (3) 混住化（都市化）社会での、啓発運動が無理なくすすめることができる。
- (4) 組合員への活発な奉仕活動は農協理解となり、各事業活動に活力を生む。
- (5) 運動展開のために、組合員の意識と職員間の自己啓発が旺盛になる。

7. 第三年次の活動の課題

- (1) 自主活動を促進するために、健康推進ヘルパーの育成をどのようにするか。
- (2) 町と村をつなぐ活動を定着させるには、どうすればよいか。
- (3) 生活改善の取り組みのなかで、農協組織の機能をどのように果していくか。
- (4) 計画の積極的な実践（モニター会議の決定事項）

むすびにあたって

私達の農協は都市化に向って凄まじい勢い

で変貌してゆく地帯である。此の様な地域で健康問題をテーマに取り組んでから2年経過した。この実践活動の中から貴重な体験と多くの教訓を得ることができた。これが農協運動の原点であることを確認すると共に、将来とも此の活動を充実してゆかねばならない使命を痛感するものである。

特に大きな喜びは、この運動が契機となって未来の地域づくり、都市農業の在り方を研究する会が結成された事である。広範な問題に向って、自ら動き始めた組合員、グループの姿に大きな感動を覚えるものである。

この運動に、県市の行政機関ならびに農協中央会をはじめ厚生連など、各連合会のご指導に対し衷心より感謝申し上げる次第である。

尚、支所職員が一丸となって此の問題に取り組み、組合員に対応したことも大きな力があったと考える。この運動はこれからであり、組合員を核に地域住民の創意工夫を集めて努力を積み重ねてゆく決意である。